

入隊から1年「自分の仕事に誇りを持って勤務」

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原1陸尉）に、昨年3月に陸上自衛隊朝霞駐屯地女性自衛官教育隊とくざとに入隊した徳里1陸士からメッセージが届いた。彼女は現在、長野県松本市の第13普通科連隊第2中隊に所属し小銃手として勤務しており、入隊から1年が過ぎた。この部隊は、空中機動による作戦行動を主任務とするほか、山岳部隊と呼ばれており、その地理的な特性を活かした山地機動訓練や冬季にはスキー訓練も実施している。これまでの勤務において、台風19号に伴う災害派遣に出動した際は、被災地での様々な活動を通じて、災害の恐ろしさを目の当たりにしたが、とにかく被災地の方々のために役に立ちたいという一心で救援活動を行ったという。当部隊に所属する女性隊員は少数ながらも、彼女は「自衛隊の仕事に誇りを持って勤務している。早く一人前の自衛官となり、これから入隊してくる後輩の手本となるよう頑張りたい」と力強く抱負を述べた。

横浜中央募集案内所は、「今後も入隊者と連絡を取り合って、学校訪問などの募集広報活動に可能な範囲で協力してもらい、募集成果の向上を図っていききたい」としている。

神奈川地本スクールモニターが広報活動開始



自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 夏井1海佐）は、6月28日（日）神奈川地本スクールモニターに対し、艦艇見学ツアーを実施した。スクールモニターとは、自衛隊（神奈川地本）のPRを目的に公募した県内の大学生等であり、今年度で第8期生、25名をモニターとして委嘱している。

今年度は、新型コロナウイルスの影響でイベント自粛が続く中、初のモニターイベントとして海上自衛隊横須賀地方総監部及び海上自衛隊第2潜水艦群の協力を受け『潜水艦』及び『護衛艦むらさめ』の艦艇見学を実施した。当日豪雨の中ではあったが、14名のモニターが参加し、潜水艦では外部からの見学及び概要説明、護衛艦『むらさめ』では乗艦し艦内を見学した。参加したモニターからは「潜水艦の説明が興味深かった」「護衛艦の大きさに驚いた」などの声が聞けた。また、SNSで自衛隊（神奈川地本）のPRをお願いした。

神奈川地方協力本部は「自衛隊の活動を皆様に広く知ってもらい、今後の募集につなげるためにも新しい企画を次々と実施したい」としている。